

2026年3月期 第3四半期 決算短信補足資料



2026/2/6

株式会社ニッスイ

© Nissui All Rights Reserved.

2026年3月期 第3四半期決算概況



2026年3月期第3四半期 サマリー

養殖や北米水産加工の回復が順調なうえ、国内チルドが好調を継続し増収・増益。期初計画を大きく上回るペース。

特別損益は南米漁業で減損があるも、政策保有株式の売却を進め損益への影響は無い。

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減	増減率(%)	2026年3月期 計画 (5月発表)	進捗率 (%)
売上高	6,633 億円	6,897 億円	264 億円	4.0	9,000 億円	76.6
営業利益	248 億円	314 億円	65 億円	26.5	345 億円	91.1
経常利益	279 億円	337 億円	58 億円	21.1	355 億円	95.2
四半期 純利益	195 億円	223 億円	27 億円	14.1	250 億円	89.4

© Nissui All Rights Reserved.

3

第3四半期は、第1四半期、第2四半期と同じような傾向で推移しました。

養殖及び北米水産加工が順調に回復し、コンビニエンスストア向けのチルド事業が伸長して、増収増益となりました。

期初計画に対しても、営業利益・経常利益は9割を超える進捗となっています。営業利益の増益幅は前年比20%超、純利益は前年比14%超です。

南米の漁撈事業で、売却を予定している漁船1隻の減損にかかる特別損失が発生しましたが、政策保有株式の売却を進めた結果、特別損益全体ではほぼ相殺されています。

2026年3月期第3四半期 セグメント別概況

売上高はCVS向け販売に加え、欧米の水産商事・食品とも好調で増収。

(単位:億円)	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	6,633	6,897	264	4.0
水産事業	2,706	2,791	85	3.2
食品事業	3,561	3,756	195	5.5
ファインケミカル事業	107	114	6	6.2
物流事業	126	127	0	0.4
その他	131	107	▲23	▲18.1
営業利益	248	314	65	26.5
水産事業	51	124	73	142.7
食品事業	237	240	3	1.4
ファインケミカル事業	1	2	0	20.1
物流事業	23	20	▲2	▲10.4
その他	7	3	▲3	▲52.1
全社経費	▲73	▲77	▲4	6.5
経常利益	279	337	58	21.1
親会社株主に帰属する四半期純利益	195	223	27	14.1

<売上高為替影響額>

合計 ▲約34億円

水産▲約21億円

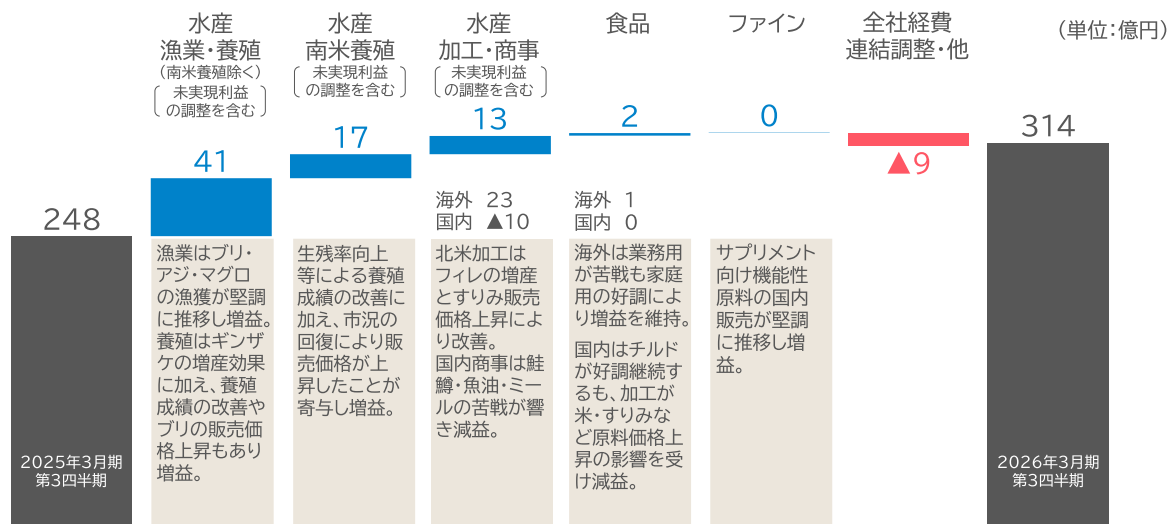
食品▲約13億円

事業別の売上高では、特に水産事業と食品事業が好調でした。
食品事業の中では、特にチルド事業が好調でした。

また、水産事業、食品事業ともに、欧米を中心とした海外事業が堅調に業績を伸ばしました。

2026年3月期第3四半期 主な営業利益増減要因(前年同期比)

水産事業は国内商事を除き総じて順調。特に養殖と北米加工の改善が著しい。食品事業は国内加工が米価で苦戦もチルドがカバー。海外は北米業務用の関税影響が響きトータルで前年同期並み。



© Nissui All Rights Reserved.

5

利益は、主に水産事業の漁業・養殖、南米養殖、加工・商事が増益要因となりました。

特に漁業・養殖は、国内、南米を合わせて前年比約60億円の増益です。養殖環境の改善や、市況にも恵まれ良い結果となりました。

漁業は、国内のブリ、マグロ、アジが堅調に推移しました。

加工・商事は、海外と国内で状況が異なりました。

海外は好調で、特に北米水産加工の改善が大きく寄与しました。加えて、欧米商事事業も好調でした。

一方で、国内商事事業については、高い仕入れ価格の在庫を保有していたことが影響し、苦戦しました。

食品事業は概ね前年並みとなりました。海外は、家庭用が業務用の苦戦を吸収して増益となりました。国内は、苦戦していた加工部門をチルド事業でカバーし、結果として概ね前年並みとなりました。

2026年3月期第3四半期 連結貸借対照表(前期末比)

運転資本に加え食品工場投資等により総資産が増加。

(単位:億円)

()内の数字は前期末比増減			流動負債 2,348 (+87)		
流動資産 3,657 (+331)			支払手形及び買掛金 615 (+50)		
現金及び預金 214 (+67)			短期借入金 1,155 (+14)		
受取手形及び売掛金 1,277 (+203)			未払費用 344 (+53)		
棚卸資産(在庫) 2,005 (+55)			固定負債 1,579 (+351)		
固定資産 3,210 (+187)			長期借入金 1,273 (+314)		
有形固定資産 1,935 (+126)			純資産 2,939 (+80)		
無形固定資産 157 (▲12)			自己資本 2,839 (+69)		
投資その他の資産 1,117 (+74)			自己資本比率		
総資産 6,868 (+519)			'25/3 43.6% ⇒ '25/12 41.3%		

© Nissui All Rights Reserved.

6

バランスシートは、前期末比で資産が519億円増加し、総資産6,868億円となっています。

12月の売上増加に伴い、売掛金が大きく増加しました。
また、欧米、日本の食品事業の工場投資を進めており、固定資産が増加しています。

2026年3月期第3四半期 連結キャッシュフロー(前年同期比)

営業CFは改善するも、戦略的投資が先行している。

(単位:億円)	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	増減
税金等調整前中間純利益	295	338	43
減価償却費(のれん償却含む)	188	197	9
運転資本	▲121	▲163	▲41
その他(法人税等の支払額、等)	▲184	▲132	51
営業CF	177	240	62
設備投資額(固定資産取得額)	▲218	▲349	▲130
その他	12	15	2
投資CF	▲205	▲334	▲128
借入金の増減額	145	336	191
その他	▲94	▲174	▲80
財務CF	51	161	110
現金期末残高	221	255	

© Nissui All Rights Reserved.

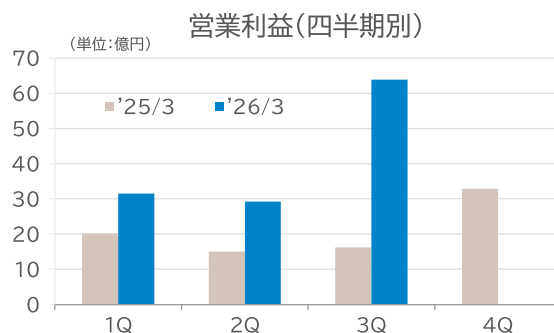
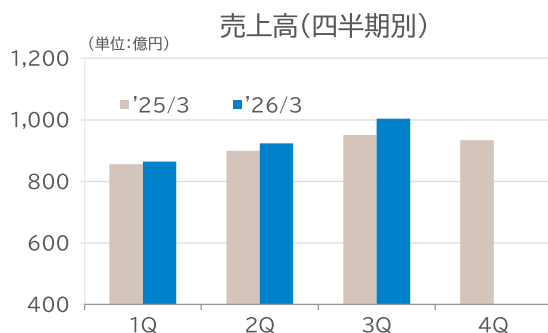
7

営業キャッシュフローは前年比約60億円改善し、240億円となりました。一方で、先行投資を進めたことにより、投資キャッシュフローは前年比で増加しました。その結果、ネットでは若干のマイナスとなっています。

2026年3月期第3四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

養殖が大きく改善。国内商事は回復の兆しが見えるも、上期の苦戦をカバーできず。

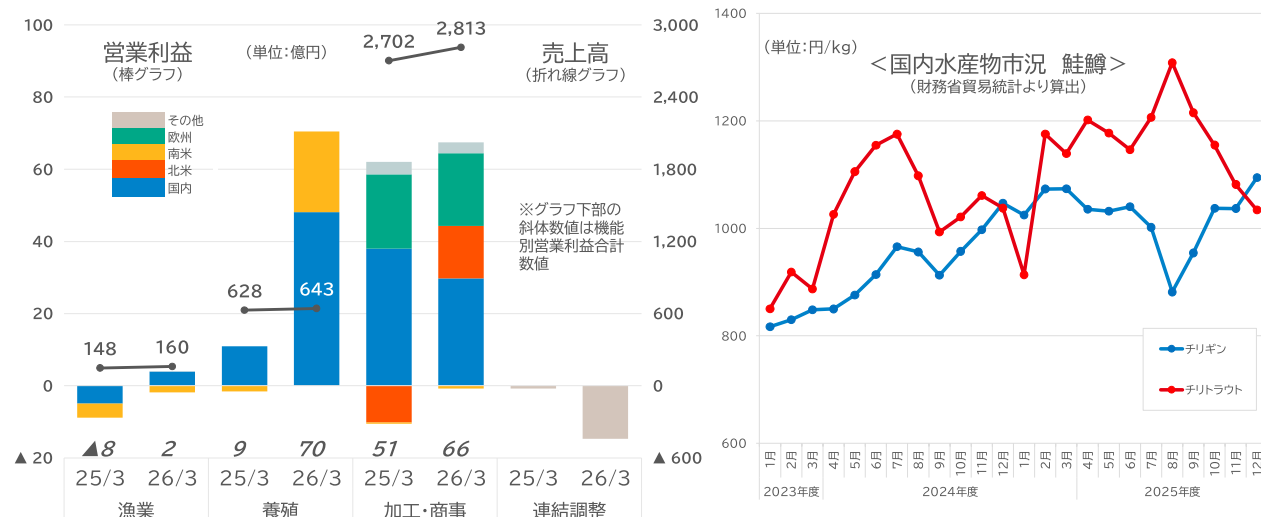
(単位:億円)	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	2,706	2,791	85	3.2
営業利益	51	124	73	142.7



水産事業の売上高は、前年比85億円の増収です。
海外水産事業の好調が主な要因です。

2026年3月期第3四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

養殖は養殖成績が改善したことに加え、販売価格が上昇したこともあり大幅増益。
北米加工の大幅改善と欧米の商事が好調に推移したことにより、国内商事の苦戦を補った。



水産事業の利益の内訳です。

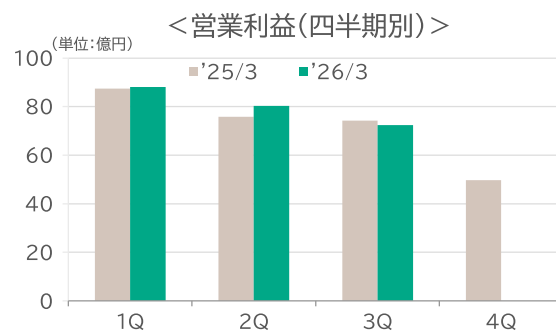
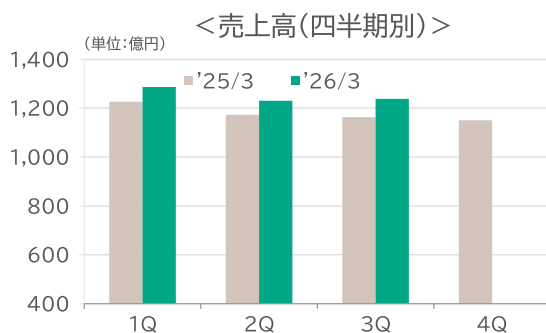
漁業は、前年マイナスだったものがプラスに転じました。
養殖は、前年は営業利益9億円でしたが、今年は70億円まで改善しました。国内養殖が大きく伸長したこと、南米養殖が赤字から黒字に転換したことが主な要因です。

加工商事は、北米事業について、前年は赤字でしたが今年は黒字に転換しました。
一方で、国内の加工商事は苦戦しています。

2026年3月期第3四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

海外の家庭用や国内チルドが堅調に推移し、苦戦する北米業務用や国内食品をカバー。

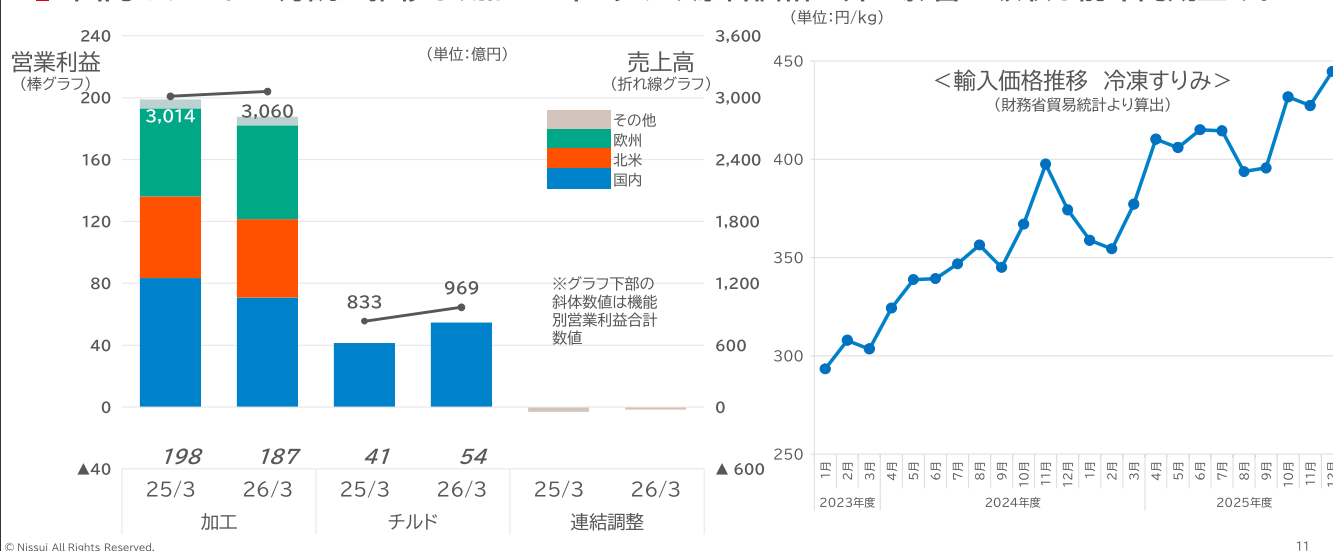
(単位:億円)	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,561	3,756	195	5.5
営業利益	237	240	3	1.4



食品事業は、前年比195億円の増収です。
チルド事業や、海外の食品事業が堅調に推移したことが主な要因です。

2026年3月期第3四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

海外は欧州での販売エリア拡大や原料のマネジメントが奏功し、北米業務用の苦戦を補い増益。
国内はチルドが好調に推移し、加工の米・すりみ原料価格上昇の影響を吸収し前年同期並み。



食品事業の利益の内訳です。

国内は、加工事業で原材料の米、すりみなどのコストが上昇しました。価格改定とのタイムラグや、価格改定で吸収しきれていない部分もあり減益となっています。

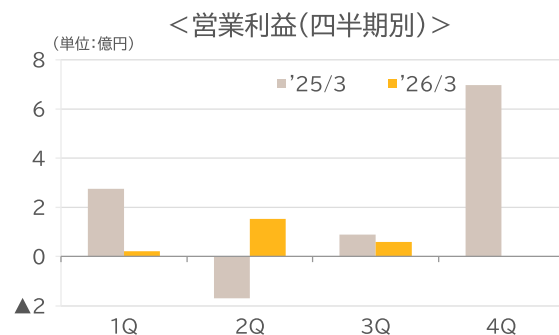
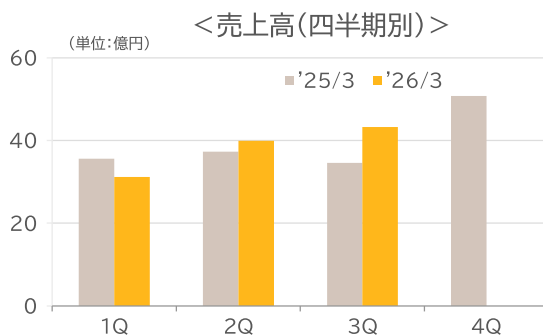
一方で、北米は概ね前年並みで推移しています。

チルド事業は、売上高が833億円から969億円と大きく増収となり、利益も増益でした。

2026年3月期第3四半期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前年同期比)

サプリメント向け機能性原料の国内販売が堅調に推移。

(単位:億円)	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	107	114	6	6.2
営業利益	1	2	0	20.1



© Nissui All Rights Reserved.

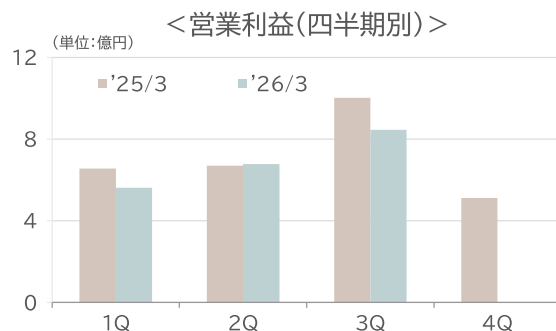
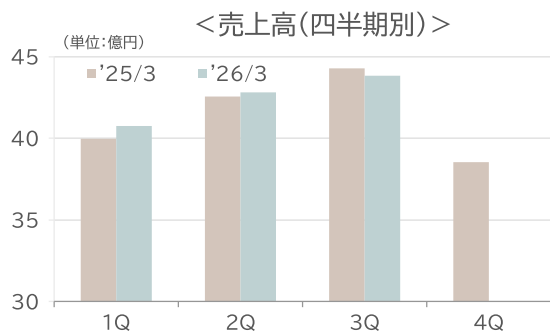
12

ファインケミカル事業では、医薬品原料の販売は大半が第4四半期に予定されており、第3四半期は主にサプリメント向け原料の販売となりました。利益は概ね前年並みです。

2026年3月期第3四半期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

物流の2024年問題を背景とした人員増に伴う人件費の増加や燃料費の上昇により減益。

(単位:億円)	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	126	127	0	0.4
営業利益	23	20	▲2	▲10.4



© Nissui All Rights Reserved.

13

物流事業は、人件費の増加を吸収しきれていない部分があります。前年に一旦改善したものの、今年は再び人件費増加の影響を受け、若干の減益となりました。

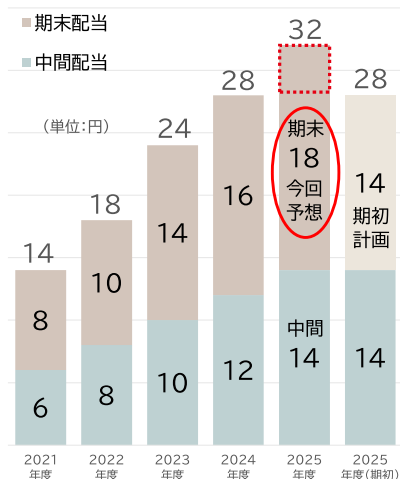
今後の見通し・取り組み



2026年3月期 通期見通し(前期比)

第3四半期までの状況を鑑み、年間計画を上方修正する。(過去最高益を更新)
また、年間計画の修正に合わせて期末配当を4円増配し年間32円とする。

	2025年3月期 実績	2026年3月期 修正計画	対前期比 増減	増減率(%)	2026年3月期 期初計画	増減率 (%)
売上高	8,861 億円	9,280 億円	418 億円	4.7	9,000 億円	3.1
営業利益	317 億円	380 億円	62 億円	19.6	345 億円	10.1
経常利益	353 億円	410 億円	56 億円	16.1	355 億円	15.5
当期 純利益	253 億円	275 億円	21 億円	8.3	250 億円	10.0



これらの業績結果を受け、年間計画を上方修正し、売上高9,280億円、営業利益380億円、経常利益410億円、最終利益275億円といたします。

第4四半期の業績はややスローダウンを見込んでいますが、年間では売上高5%増、営業利益も約20%増と高い水準になると見込んでいます。各段階利益とも、過去最高益を更新する見込みです。修正前計画に対しては、利益面で10%強の上振れとなっています。

あわせて、配当についても増配を発表させて頂きました。前年は年間28円でしたが、今回は4円増配し、年間32円となります。

2026年3月期 通期見通し

水産は欧米の商事が好調なうえ、食品も国内チルドの好調継続や海外家庭用の伸長により約5%の増収。営業利益も約20%増益。

(単位:億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 修正計画	対前期比増減		2026年 3月期 期初計画	対期初計画比増減	
			(億円)	率(%)		(億円)	率(%)
売上高	8,861	9,280	418	4.7	9,000	280	3.1
水産事業	3,640	3,765	124	3.4	3,568	196	5.5
食品事業	4,710	5,017	306	6.5	4,901	115	2.4
ファインケミカル事業	158	168	9	6.0	183	▲15	▲8.2
物流事業	165	167	1	1.0	167	0	0.0
その他	186	163	▲23	▲12.5	181	▲18	▲9.9
営業利益	317	380	62	19.6	345	35	10.1
水産事業	84	160	75	90.0	127	32	25.5
食品事業	287	284	▲2	▲0.9	278	6	2.2
ファインケミカル事業	8	14	5	62.6	14	0	3.6
物流事業	28	25	▲3	▲11.9	25	▲0	▲2.0
その他	9	4	▲5	▲56.8	9	▲5	▲57.9
全社経費	▲100	▲108	▲7	7.9	▲110	2	▲1.8
経常利益	353	410	56	16.1	355	55	15.5
親会社株主に帰属する当期純利益	253	275	21	8.3	250	25	10.0

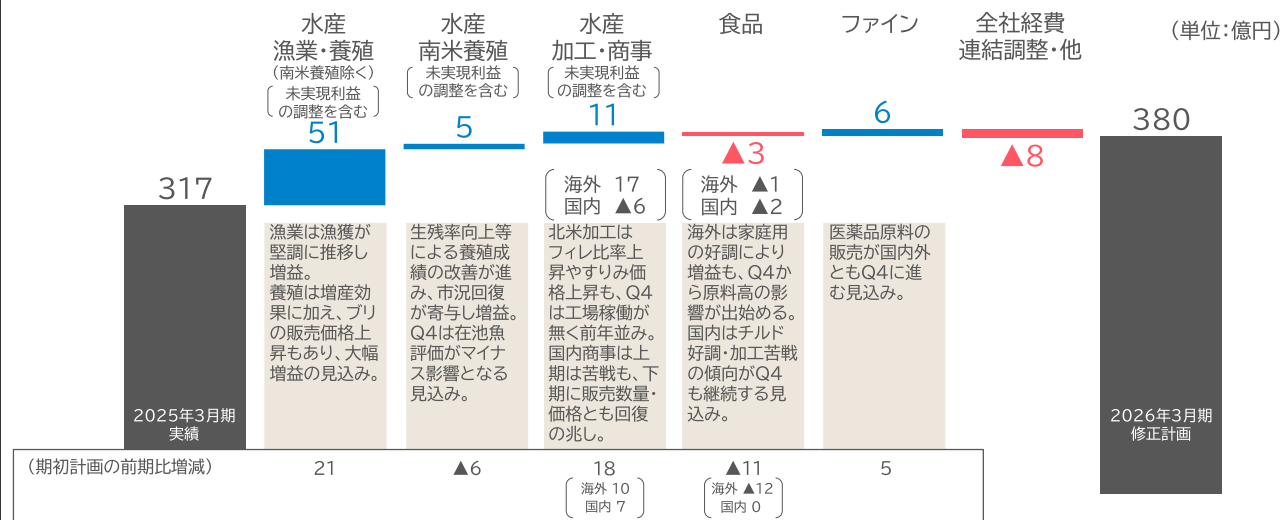
<売上高為替影響額>
修正計画(前期比)
合計 +約25億円
水産+約8億円
食品+約17億円

事業別の通期見通しについては、第3四半期までの状況と大きく変わらず、チルド事業、欧米の水産事業・食品事業が好調とみています。

今年度はそれほど大きな為替の影響は見込んでいません。

2026年3月期 通期見通し 主な営業利益増減要因(前期比)

養殖や北米水産加工の改善、国内チルドが牽引。Q4は南米養殖の在池魚評価や海外食品の原料価格上昇の影響が出るも、国内商事やファインが寄与し概ね前期並みを想定。



営業利益は、前期末の317億円から380億円への増加を見込んでいます。内訳は第3四半期までの状況と大きく変わりません。

水産事業では、漁業・養殖が南米を含めて堅調に推移しています。加工商事も堅調で、特に海外事業が全体を牽引しています。

食品事業では、第3四半期までと比較すると通期で若干の減益を見込んでいます。海外は、第3四半期、第4四半期にかけて原材料価格が上がってきた影響が出てきています。国内は、上期ほどの勢いが徐々になくなってきており、前年比若干の減益となる見込みです。

ファインケミカル事業では、第4四半期から医薬品原料の販売が本格化する見込みで、前年比6億円の増益を見込んでいます。

2026年3月期 通期見通し 期初計画と修正計画との差異(営業利益)

- ・養殖はエリア分散や種苗強化によるリスク低減・増産効果に加え、価格にも恵まれ大きく増益。
- ・海外食品は欧米ともインフレ懸念を強く見ていたが、戦略的に原材料確保することなどにより影響を最小限に抑えることができた。
- ・国内水産商事、食品加工は価格改定など、コストアップ対応が追い付かず苦戦も、回復基調。

主なセグメント (単位:億円)		期初計画	修正計画	増減額
水産	漁業・養殖 (未実現利益含む)	30	60	+29
	南米養殖 (未実現利益含む)	14	26	+12
	加工・商事 計 (未実現利益含む)	76	69	▲6
	海外	30	37	+7
	国内	45	31	▲14
食品	食品 計	278	286	+7
	海外	139	149	+10
	国内	138	136	▲2
ファイン		13	14	+1

*数値は機能別営業利益合計数値

© Nissui All Rights Reserved.

18

期初計画と今回の修正計画を比較しています。

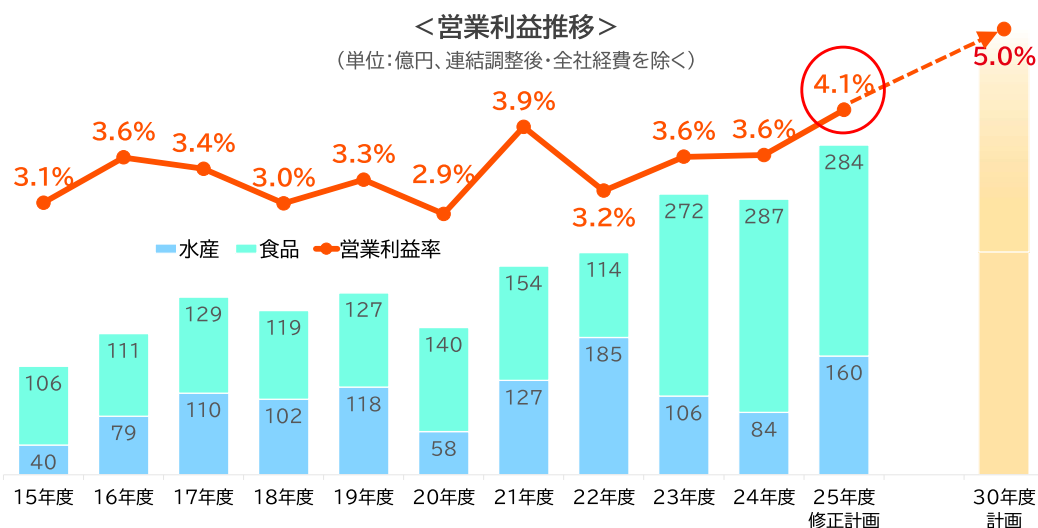
漁業・養殖、南米養殖で大きく改善しており、養殖エリアの拡大、種苗の強化、価格にも恵まれたことなどが主な要因です。

海外の食品事業では、第3四半期以降に原材料価格の上昇の影響が出てやや厳しい状況になってきましたが、第1四半期、第2四半期は非常に良かったため計画比プラスとしています。

国内の水産事業はコストアップの影響もあり期初計画と比較すると苦戦しました。ただし、第3四半期以降は回復基調となっています。

営業利益率推移

水産・食品が互いにカバーしつつ利益水準を切り上げ、営業利益率が4%を超える見込み。
サーモン養殖会社の買収効果で、長期ビジョンの営業利益率5%への道が見えてきた。



営業利益の推移を示したグラフです。

水産事業と食品事業が互いに補完し合いながら、
全体の利益水準を引き上げてきていることを示しています。
2030年には、水産事業と食品事業が概ねバランスをとれるようにする
ことを目指しています。

コロナ禍を経て営業利益率も徐々に改善してきており、今期は4%を超
える水準まで到達しています。
先日サーモン養殖会社の買収も行いましたので、営業利益率5%という
2030年度計画への道筋が見えてきました。

今後の見通し・取り組み:南米サーモン養殖事業の拡大①

アトランティックサーモン(以下、「アトラン」)に特化したチリのパスケラ・ヤドラン社(以下、「ヤドラン社」)をグループ化。シナジーにより、現在の**2.5倍**にあたる**生産能力8万トン強**まで拡大する。

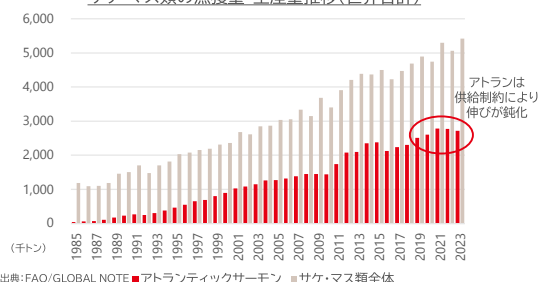
背景 食品事業と水産事業をバランスさせ、安定した事業構造に転換。

グループ化の背景（養殖事業の重要性／当社の優位性）	
水産物需要の世界的な拡大	世界的に水産物需要は伸びているが、天然漁獲量は頭打ちで養殖への期待は高い。なかでもサーモンの拡大は顕著。(右図)
技術高度化による成長可能性	養殖は農畜産に比し歴史が浅く、技術革新による収益安定、規模拡大の可能性大。
営業利益率10%以上が見込める事業	養殖事業は高度化により収益力が向上し、営業利益率10%以上が見込める。
養殖に関する豊富なノウハウ	当社はチリでの養殖事業を40年近く行っており、養殖、加工、販売において豊富なノウハウを持っている。

サーモン市場は需要拡大が進む一方、供給制約が顕在化

- 世界のサーモン生産量は、過去20年間で約2倍に拡大。アトランは約2.3倍に拡大。
- 一方、環境規制やライセンス制限の強化が年々進む。養殖場拡大の余地が限られ、需給ギャップは構造的に拡大

サケ・マス類の漁獲量・生産量推移(世界合計)



© Nissui All Rights Reserved.

20

先日、養殖事業の説明会を実施したので詳細は省略しますが、南米サーモン養殖は、2030年に向けて現状から約2.5倍となる8万トン規模まで拡大する計画です。

養殖は、今後も需要の拡大が見込まれる一方、天然資源は頭打ちとなっています。また、利益面、技術革新の面のいずれにおいても、大きな可能性がある分野だと考えています。農畜産と比べると、水産養殖は歴史が浅く、差別化の余地がまだ大きい分野です。

当社は、チリで約40年にわたり養殖事業を行ってきており、その自負を踏まえて、今回のヤドラン社のグループ化という投資判断に至りました。

当社の知見・資源を最大活用し、早期に黒字化・シナジーを実現。

【ヤドラン社の課題】
飼料組成を原因とした魚病
SA社の約1.2倍の養殖オペレーションコスト
業界平均よりも高い飼料単価

→ PY社の買収およびシナジーにより赤字からの脱却に加え、**40～50百万米ドル程度の利益プラス効果**を見込む。

魚病対策 飼料を変更し**2025年後半より効果を確認**。
養殖成績改善が進めば池入尾数も増やせる。

SAを参考にコスト最適化 物流の効率化や重複する間接コストのスリム化、種苗生産、機械・網の保守等の内製化でコストダウン。

販売価格の上昇 ノルウェー産の価格下落（前年の生産量抑制の反動増）の影響でチリ産も価格が下落していたが、回復基調。

漁場ミックス効果

アトラン養殖に適した漁場を獲得し、各鮭鱒（三種）毎に適した漁場活用が可能に。これにより、
①魚病発生の低減と魚病予防措置等のオペレーション削減
②レギュレーションで一定の漁場休止期間が必要だが、漁場数の増加で効率的な生産が可能に
③養殖成績が改善すれば導入尾数が増やせる

増産効果

種苗生産能力の不足により、漁場を活用しきれない。SAが建設中の淡水養殖場のフル活用で種苗確保と淡水養殖場の稼働率アップ。

その他のシナジー

- ・ 生鮮加工機能に強み。フィレ、ポーションに加え、スキンパック、サーモンミニオンなど高付加価値商品が可能。
- ・ 当社のGLOBAL LINKSとヤドランのマーケットをつなげ、高付加価値の生鮮商品の販路を拡充。
- ・ SA社の飼料工場のフル稼働によるコストダウン。



SA社の種苗生産施設（淡水養殖場）も活用



生鮮サーモン スキンパックポーション



サーモンミニオン等の付加価値商品も生産

買収したサーモン養殖会社は、現在は赤字ですが、まず黒字化を進め、その上でシナジーを創出していきます。

魚病対策は徐々に効果が出始めています。

既存のチリの養殖会社であるSA社を参考に、物流や間接コスト、種苗生産などの内製化を進めることで、外部へのコスト流出を抑えます。機械や網の保守についても、自社で対応することで、コストダウンを図ります。価格面では、前年はノルウェーの影響が出ていましたが元に戻るとみています。

一番大きい点としては漁場の獲得で、アトランティックサーモン、ギンザケ、トラウトに適した漁場を獲得できたことで、魚病の発生を抑えられ、かつ魚病予防に関するオペレーションコストの削減が見込まれています。漁場休止の制約があるなかで、漁場数が増えたことで運営効率が向上します。養殖成績の改善に伴い、導入尾数を増やすことも可能になります。

種苗については、SA社が準備している淡水養殖場をフル稼働できるようになり、品質の向上と安定供給が可能となります。

販売面では、サーモン加工品やスキンパックなど、付加価値商品の展開ができる体制が整っています。生鮮品の販売ノウハウや販売チャネルも有しており、大きな期待を持っています。

今後の見通し・取り組み：水産事業(国内)

岩手県陸前高田市のフィージビリティスタディが完了し、事業化へ。これをテコに、2030年に国内サーモン10,000t(うち岩手県で7,000t)を目指す。

▶ 優良な海面漁場である岩手県で拡大

・大型生簀や洋上設置型自動給餌機などの先端養殖技術を導入し、生産性が高く高品質なサーモン養殖ビジネスを構築。

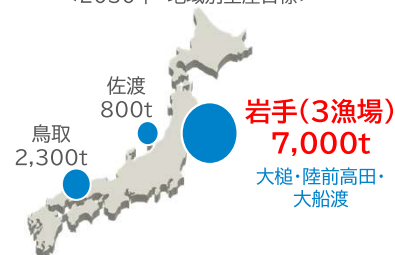


▶ 地元の孵化場を活かしつつ新規の種苗生産拠点を整備

・海面養殖の拡大に合わせ種苗生産を拡大。豊富な地下水を揚水して利用できる構造を採用し、水温や水量の変化に影響を受けにくい仕組みを実現。



<2030年 地域別生産目標>



・地元漁協のシロザケ放流事業の休止期間を活用。
・10基を設置し、種苗生産を拡大。

© Nissui All Rights Reserved.

22

国内でもサーモン養殖を拡大しています。国内のサーモン養殖を、2030年に向けて岩手県中心に7,000トン規模まで拡大する計画を進めています。

種苗をしっかり育て、よいサーモンをコストを抑えて生産していきます。

今後の見通し・取り組み：食品事業(海外)

伸長するチャネルやカテゴリに注力。

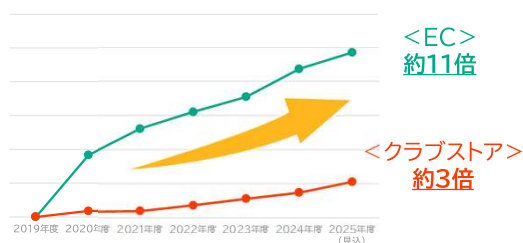
<北米>



ーコロナ禍で増えた水産フライ冷凍食品の需要を更に引き出すため、コア商品で販促を強化。量販店に加え、伸長するEC・クラブストアへの販売を進める。



<北米食品(ゴートンズ社)チャネル別売上高>
(2019年度を基準とした指数)



<欧州>



ー主力のチルド水産フライは需要が堅調であり、生産能力増強によりスペイン・イタリア他の需要増加に対応する。



<欧州食品(シテマリン社)販売国別売上高>
(2019年度を基準とした指数)



海外の食品事業は、引き続き好調に推移しています。

米国では、コロナ禍を経て、肉中心の食生活からシーフードの冷凍食品への注目が広がりました。それに併せゴートンズ社は、ECやクラブストア向けの展開を拡大しており、売上は堅調に伸びています。

シテマリン社の白身魚フライは、スペインやイタリアへと販売エリアを広げ、事業が急速に拡大しています。

今後の見通し・取り組み：食品事業(日本)

簡便・即食に加え、手軽に本格的な美味しさを味わいたい、などの消費者ニーズに対応した商品の展開。

・手間がかかる魚料理をレンジ調理で喫食できる商品や、男性をターゲットとしたワンプレート商品「丼もの」の冷凍食品を新たに展開。



・量販店惣菜・産業給食・外食などの人手不足に対応する「E調理」シリーズの冷凍食品を拡充。



「E調理」シリーズ Economy(節約)・Easy(簡便)・Efficiency(効率的)の3つを実現し、電子レンジ・スチームコンベクションオープン・湯せんといった手軽な調理ででき上がる商品



自然解凍でもおいしい天ぷらや、味付けされ、流水解凍も可能な業務用商品

▶ 価格改定による収益性向上

・(国内)2026年3-4月の価格改定を実施予定、原材料の価格高騰や物流費などのコスト上昇に対応。
(家庭用商品：約2～34%、業務用商品：約2～22%)
これにより、約30億円の利益改善を見込む。

© Nissui All Rights Reserved.

24

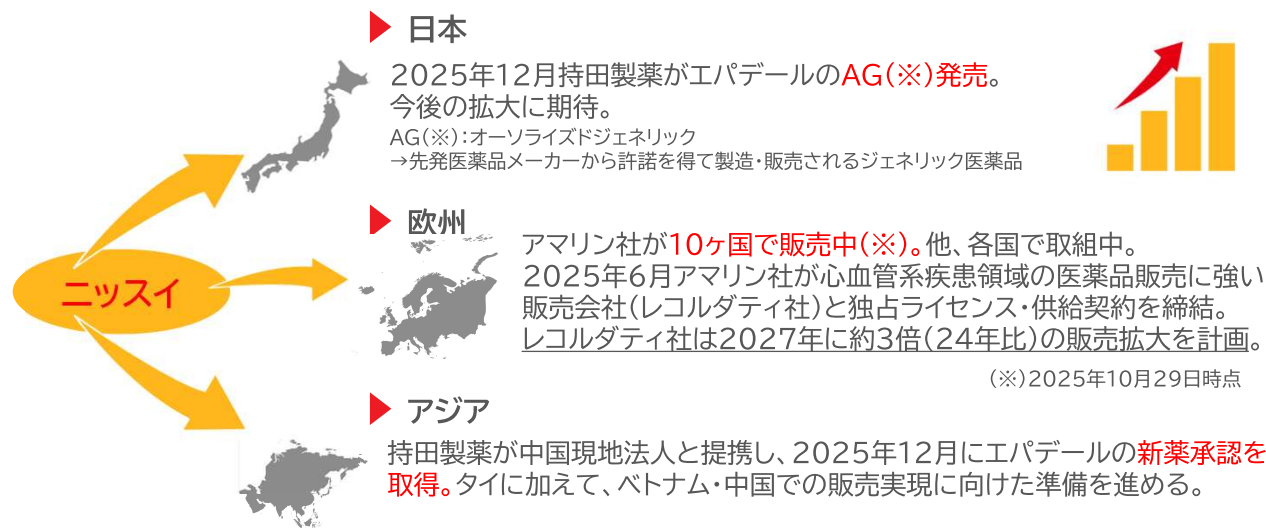
国内では、手軽に本格的なおいしさが楽しめる冷凍食品を展開しています。

焼き魚や、ご飯とおかずが一緒になっている商品など、消費者ニーズに対応した商品を投入しています。

業務用冷凍食品についても、自然解凍でも湯煎でもレンジでも対応可能な、使い勝手のよい「E調理シリーズ」を拡充しています。

また、3月と4月に価格改定を実施し、約30億円の利益改善を見込んでいます。

日本・欧州・アジアで医薬品向け高純度EPAの販売を拡大。



ファインケミカル事業では、医薬品原料の販売拡大を見込んでいます。

国内では、2025年12月の持田製薬によるエパデールのオーソライズドジェネリックの発売を受け、今後の拡大に期待しています。

欧州においても、レコルダティ社の発表によれば2027年に大幅な販売拡大を計画しており、こちらについても期待しています。

アジアは粛々と実施していますが、数量的な増加はまだ時間がかかる見込みです。

サステナビリティの取組み：TNFDレポート2025の発行

重点成長分野である養殖事業を対象に開示の範囲と深度を拡充したTNFDレポートを発行。

- ▶ TNFD養殖セクターガイダンスに基づき、チリのサーモン養殖バリューチェーンにおける自然への依存・影響を特定し、リスク・機会を評価。対応策を整理した。

当社グループではマテリアリティのひとつに「海洋の生物多様性の主流化」を位置づけ、海洋生態系を含む自然資本を事業や経営判断の前提として捉え、経営課題として体系的に取り組んできた。

今後も、自然関連のリスクと機会を事業戦略に取り込み、企業価値向上とネイチャーポジティブの実現に取り組んでいく。



URL: <https://nissui.disclosure.site/ja/themes/254>

1月30日に、2年ぶりにTNFDレポートを発行いたしました。
チリのサーモン養殖事業を中心に分析・評価をしているので、ぜひご覧ください。

本邦初 ブルー・ネイチャーボンドの発行（予定）

調達資金の全額を持続可能な養殖事業（黒瀬水産・SA社）に係る支出に充当する国内普通社債（ブルー・ネイチャーボンド）を発行する。



フレームワーク(2/6公表)



資金使途の対象養殖：
黒瀬ぶり



資金使途の対象養殖：
FIVE STARサーモン(チリ)

名称	株式会社ニッスイ第1回無担保社債 (ブルー・ネイチャーボンド)
年限	5年(予定)
発行額	未定
条件決定日	最速2026年2月下旬(予定)
資金使途	完全養殖かつASC ¹ 、MEL ² 等の生物多様性・生態系に配慮した認証を取得済みもしくは同認証基準相当を満たす持続可能な養殖事業に係る支出
外部評価	株式会社格付投資情報センター(R&I)

1 水産養殖管理協議会(Aquaculture Stewardship Council)が運営している、養殖業が持続可能な方法で運営され、周辺の自然環境や地域社会への配慮が行われている「責任ある養殖水産物」であることを証明する認証制度
2 一般社団法人 マリン・エコラベル・ジャパン協議会が運営している、水産資源の持続的利用や生態系保全に資する活動を積極的に行っている生産者や、そのような生産者からの水産物を積極的に取り扱う加工・流通業者の取り組みを促進させること、漁業や養殖、加工・流通段階での水産物の取り扱いについての透明性を担保し、関係事業者や消費者の選択や信頼に寄与することを目的とした認証スキーム

本日発表の通り、ブルーネイチャーボンドの発行を予定しております。
養殖事業のうち黒瀬水産とSA社における、ブルー・ネイチャー関連投資に限定した社債となります。



バリューチェーン強靱化を通じ、
長期ビジョン

「人にも地球にもやさしい食を世界に
お届けするリーディングカンパニー
(GOOD FOODS 2030)」
達成に向けて取り組んでまいります。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



まだ見ぬ、食の力を。

株式会社ニッスイ
証券コード：1332

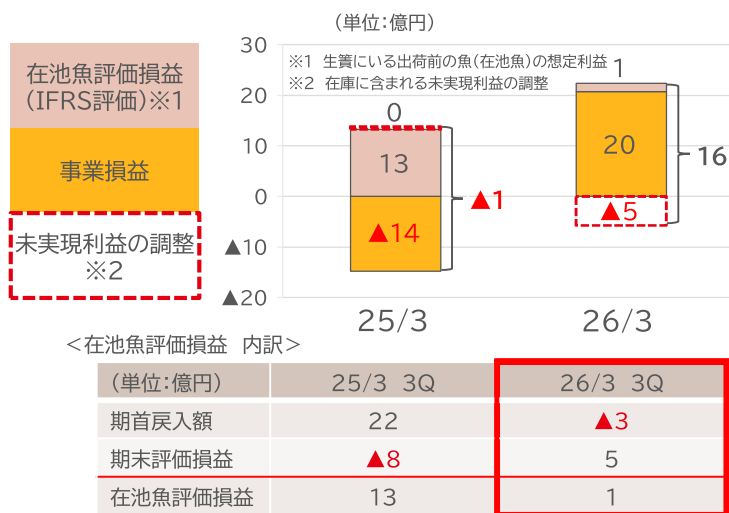
お問合せ先：経営企画IR部IR課
03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

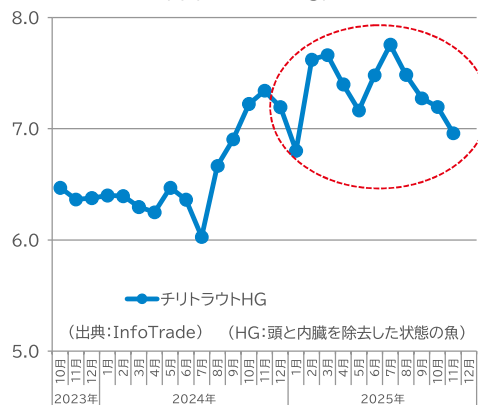
参考資料

2026年3月期第3四半期 南米鮭鱒養殖について

在池魚評価損益はほぼ影響なし。

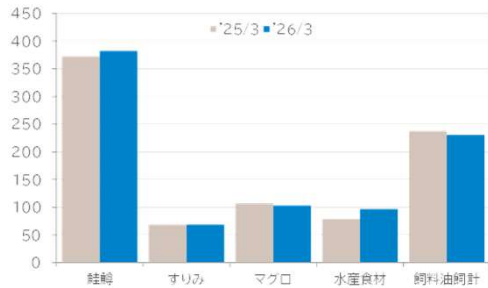


<チリ産トラウトHG相場推移>
(単位:USD/kg)

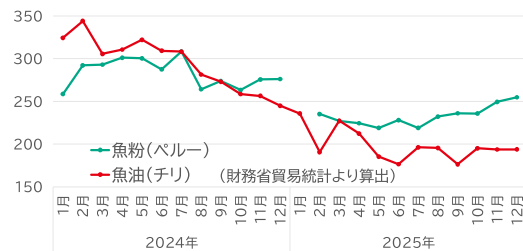


2026年3月期第3四半期 参考資料

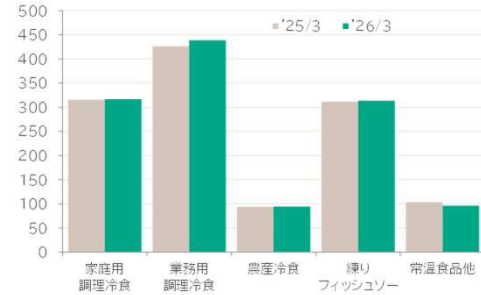
水産個別 主要魚種別売上高 (単位:億円)



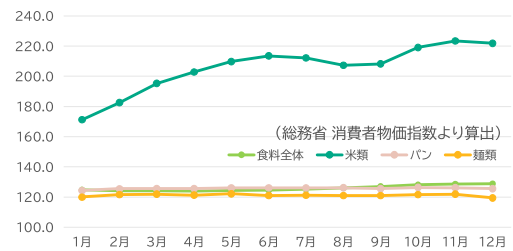
輸入価格推移 魚油・魚粉 (単位:円/kg)



食品個別 カテゴリ別売上高 (単位:億円)



食料価格の推移(米類・パン・麺類) (指数:2020年=100)



2026年3月期第3四半期 連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	増減	主な増減要因
売上高	6,633	6,897	264	
売上総利益	1,052	1,139	86	
販売費・一般管理費	804	824	20	
営業利益	248	314	65	
営業外収益	59	50	▲8	持分法による投資利益▲13、助成金収入+7
営業外費用	28	26	▲1	
経常利益	279	337	58	
特別利益	23	20	▲3	投資有価証券売却益▲2
特別損失	7	19	12	減損損失+12
税金等調整前四半期純利益	295	338	43	
法人税等	79	77	▲2	
法人税等調整額	5	22	17	
四半期純利益	209	238	28	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	13	15	1	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	195	223	27	

2026年3月期第3四半期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート（連結調整前）

主要在外会社の 為替換算レート	2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,089	1,654	1,180	1,747	91	93	136	▲43
EUR(百万ユーロ)	331	545	349	578	18	32	30	2
DKK(百万クローネ)	2,570	568	2,675	593	104	25	23	2
その他通貨	—	299	—	326	—	26	21	4
計		3,067		3,245		177	211	▲34

【参考:為替レート】

※右表の為替レートは
第3四半期の平均

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	変動率
米ドル(USD)	146.66 円	148.40 円	1.2%
ユーロ(EUR)	161.59 円	172.23 円	6.6%
デンマーククローネ (DKK)	21.66 円	23.08 円	6.5%

2026年3月期第3四半期 セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	1,969 (16)	609 (83)	293 (6)	687 (35)	56 (▲3)	3,617 (138)	▲825 (▲52)	2,791 (85)
	1,953	526	287	652	59	3,479	▲773	2,706
食品事業	2,433 (126)	841 (4)		663 (41)	90 (11)	4,029 (182)	▲273 (13)	3,756 (195)
	2,307	837		622	79	3,847	▲286	3,561
ファイン 事業	135 (7)					135 (7)	▲20 (0)	114 (7)
	128					128	▲20	107
物流事業	253 (5)					253 (5)	▲126 (▲5)	127 (1)
	248					248	▲121	126
その他 事業	161 (8)				1 (0)	163 (8)	▲56 (▲33)	107 (▲24)
	153				1	155	▲23	131
仮計	4,954 (163)	1,451 (87)	293 (6)	1,350 (75)	149 (10)	8,199 (341)		
	4,791	1,364	287	1,275	139	7,858		
連結調整	▲812 (▲36)	▲173 (▲23)	▲207 (▲16)	▲10 (2)	▲98 (▲5)		▲1,302 (▲77)	
	▲776	▲150	▲191	▲12	▲93		▲1,225	
連結 計	4,142 (127)	1,278 (65)	86 (▲10)	1,340 (78)	50 (5)			6,897 (264)
	4,015	1,213	96	1,262	45			6,633

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去を含む。

2026年3月期第3四半期 セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	81 (37)	14 (24)	19 (25)	20 (▲0)	3 (▲0)		139 (87)	▲14 (▲13)	124 (73)	4.5 (2.6)
	44	▲10	▲5	20	3		52	▲0	51	1.9
食品事業	125 (0)	50 (▲2)		60 (3)	5 (▲0)		242 (2)	▲1 (1)	240 (3)	6.4 (▲0.3)
	124	52		57	5		240	▲2	237	6.7
ファイン 事業	2 (0)						2 (0)	▲0 (▲0)	2 (0)	2.0 (0.2)
	1						1	0	1	1.8
物流事業	20 (▲2)						20 (▲2)	0 (0)	20 (▲2)	16.4 (▲2.0)
	23						23	0	23	18.4
その他 事業	5 (0)				0 (0)		6 (0)	▲2 (▲4)	3 (▲4)	3.4 (▲2.4)
	5				0		5	1	7	5.8
全社経費						▲78 (▲4)	▲78 (▲4)	0 (0)	▲77 (▲4)	
						▲74	▲74	0	▲73	
仮計	236 (36)	65 (22)	19 (25)	80 (3)	8 (▲0)	▲78 (▲4)	332 (83)			
	199	42	▲5	77	9	▲74	249			
連結調整	▲6 (▲11)	▲0 (▲0)	▲6 (▲6)	▲4 (0)	▲0 (0)	0 (0)		▲18 (▲17)		
	4	▲0	0	▲4	▲0	0		▲0		
連結 計	229 (25)	64 (22)	13 (18)	76 (3)	8 (0)	▲78 (▲4)			314 (65)	4.6 (0.8)
	203	42	▲5	72	8	▲73			248	3.7

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

2026年3月期第3四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

漁業

養殖

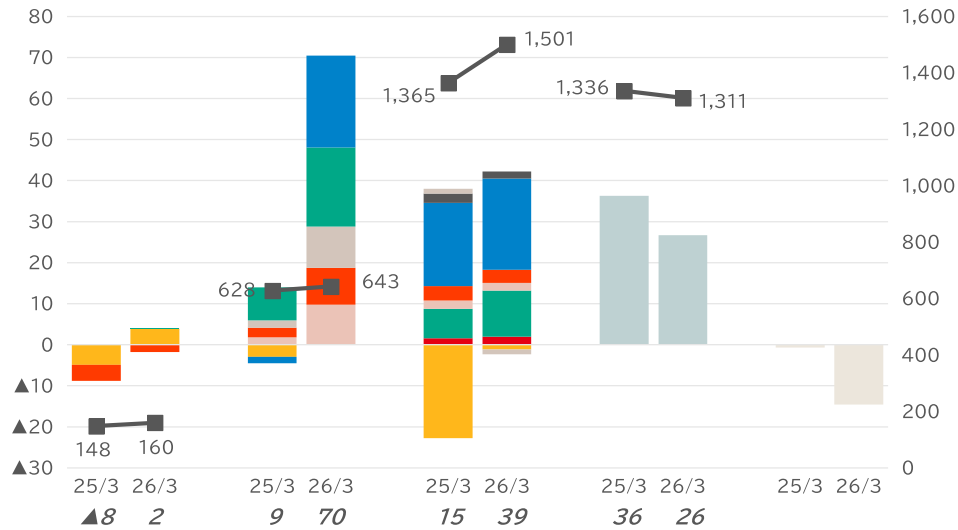
加工・商事

ニッスイ個別

連結調整

営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

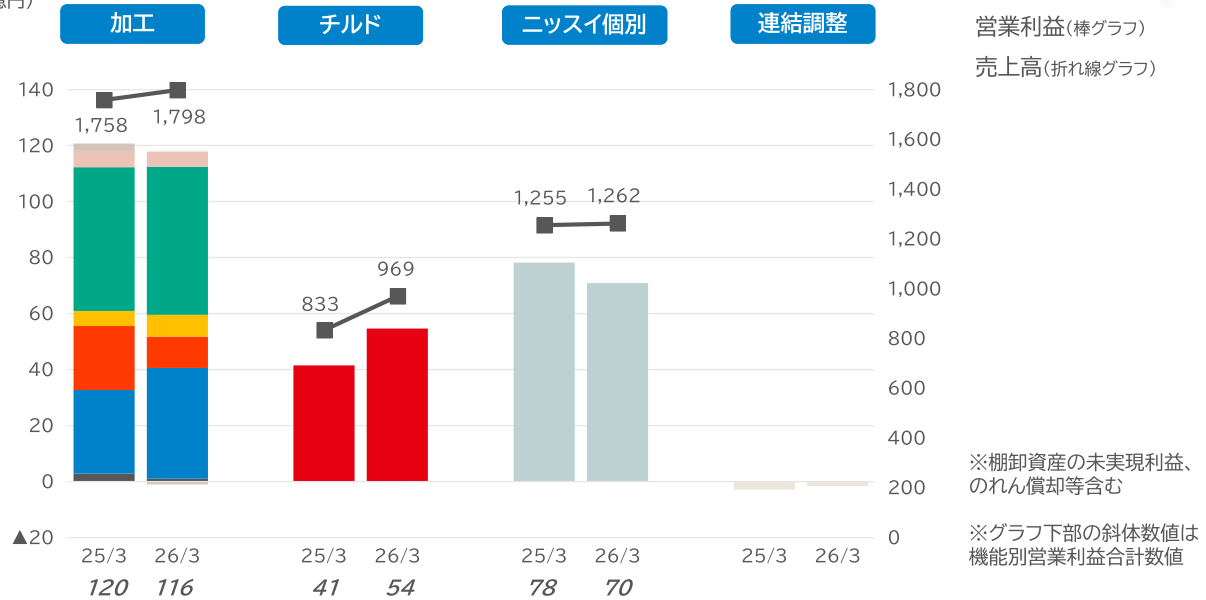


※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

2026年3月期第3四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)



© Nissui All Rights Reserved.

38



まだ見ぬ、食の力を。

© Nissui All Rights Reserved.